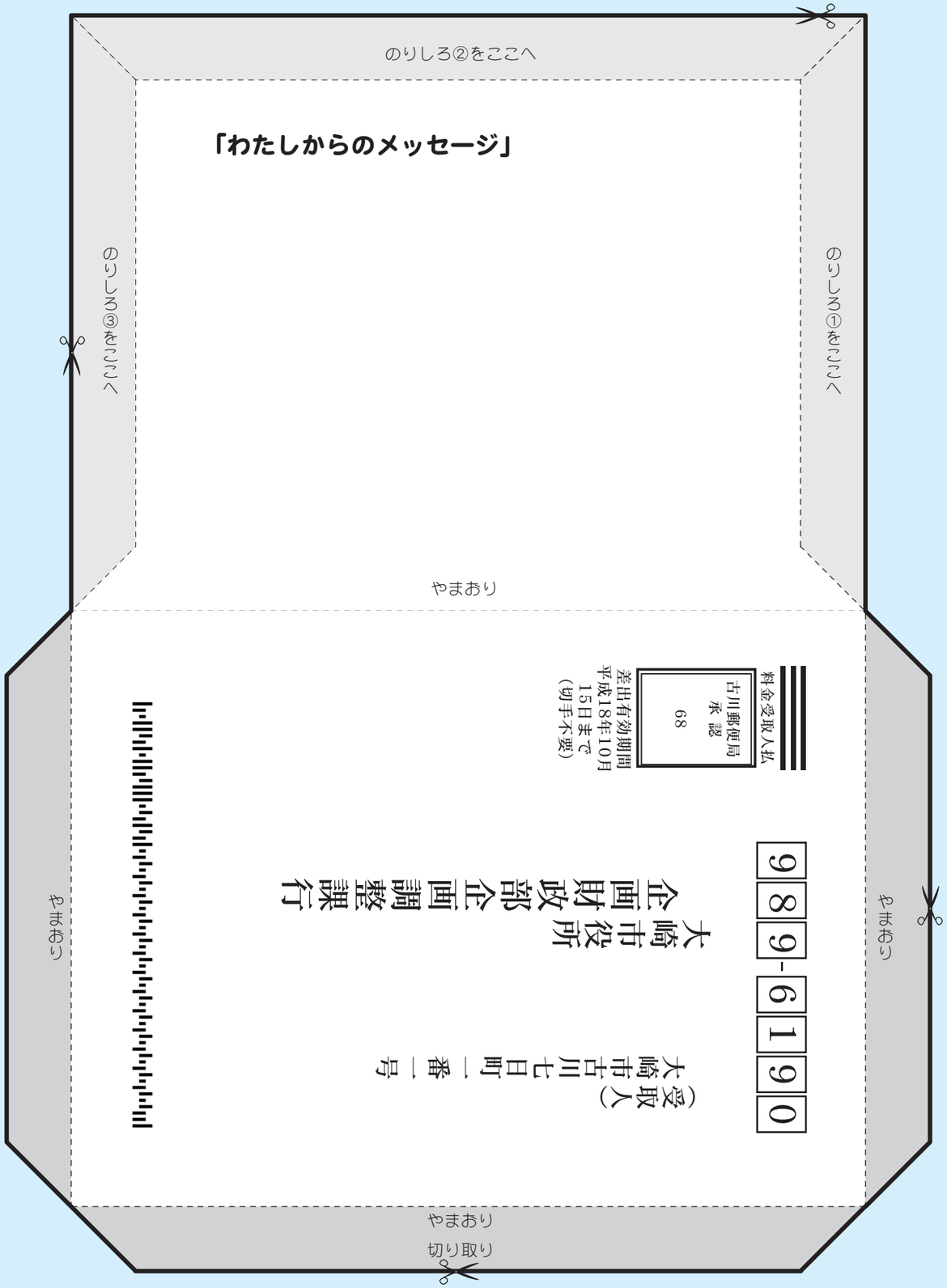
太線をハサミで切り取り、こちら側を外側にして2つに折り、のり付けすると封書になります。9月30日㈯までにポストへ投かんしてください。（切手不要）



スタートします！
市民総参加の感動を奏でるまちづくり

市民検討会議のメンバーを募集します

市内に在住または勤務している十八歳以上の人で、まちづくりに興味があり、ボランティアで参加していただける人を募集します。

■申し込み

「わたしからのメッセージ」の、市民検討会議希望の欄に記入し、九月三十日㈯まで投かんしてください。（メッセージの出し方参照）

＊応募者多数の場合は選考

■市民検討会議とは

市の未来について話し合いながら、これからの「まちづくり」について皆さんで考えていきます。

一、市民検討会議の主な内容

①部会ごとに市の望ましい姿について意見交換を行い、報告書を作成します。また、市全体の将来像について検討します。

②メンバーから希望者を募り、フォーラム開催の実行委員会を組織します。

二、部会の内容

①**市民参画・行政改革部会**
市民と行政の協働体制づくりや男女共同参画の推進、行財政基盤の確立などについて

②**都市・交流基盤整備部会**
道路整備や公共交通の充実、地域間・国際交流などについて

③**教育・文化部会**
学校教育環境の整備や生涯学習の充実、地域文化の伝承・形成などについて

④**防災・安全部会**
防災や防犯、平和などについて

⑤**産業振興部会**
各産業（農林業、商工業、観光）の活性化や企業・新分野の開拓などについて

⑥**保健・医療・福祉部会**
保健対策や医療体制、子育てや高齢者・障害福祉などについて

⑦**自然・生活環境部会**
自然環境の保全や生活環境の整備、循環型社会などについて

⑧**若人部会**
おおむね二十代を中心に構成。住み続けたい「まち」などについて

三、開催期間・回数

十月下旬～平成十九年一月（予定）、四回程度

＊原則土曜日の午後開催予定

あなたの描く「未来のおおさき」をご応募ください

「未来のおおさき」をテーマにした作文・絵画を募集します。未来の大崎市が「こうなったらいいな」、「こんなまちに住みたい」、「大崎市で自分がしたいこと」など、自由な発想の作文・絵画をお待ちしています。

■テーマ　「未来のおおさき」

■対象　市内に在住または在学している小・中学生（作文は小学五年生以上）

■募集期間　九月一日㈮～十月二日㈪必着

■応募規定

・応募点数は作文・絵画それぞれ一人一点とします。

・応募作品は、総合計画書や市の広報などに活用します。

・応募作品には、①タイトル②氏名③学校名④学年、組⑤住所⑥電話番号を記入してください。

・応募作品はお返しません。

・著作権は市に帰属します。

■規格

「作文の部」

・小学生　B4版四百字詰原稿用紙三枚程度

・中学生　B4版四百字詰原稿用紙五枚程度

「絵画の部」用紙は四つ切り（五十四センチメートル×三十八センチメートル）、画材は自由

■応募先　市内在学の人は各学校へ提出。そのほかの人は企画調整課へ直接または郵送（〒989-6188　古川七日町1-1　企画調整課政策調整係）で提出してください。

■入選及び発表　部門別に最優秀賞二点をはじめ、優秀賞、佳作を選考し記念品などを贈ります。入選作品は広報おおさきで発表します。また、十一月三日開催の大崎市開市式で紹介します。

市長コラム　天・地・人（てんちじん）

いきいき健康寿命へ

今年も敬老会の時期がやってきました。敬老会を通して、長い間社会のために尽くしてきた高齢者を敬い、長寿を祝うとともに、高齢者福祉の向上について感心を深めたいものです。

新生大崎市は約十四万人の人口を擁しております。そのうち二十三パーセント約三万二千人が六十五歳以上。つまり四人に一人が高齢者ということです。高齢者が数の上でも役割の上でも主体的な位置づけにあるということです。

人生五十年時代はいかに長生きするかということが大きな課題でした。今後は健康で長生きする「健康寿命」を目標にすべきです。健康寿命とは、病気や認知症などで要介護状態にならずに、元気で活動的に暮らせる状態のことで、現在我が国では、寿命と健康寿命に六・四年の差があるそうです。

超高齢社会は、いかに介護を必要としない元気な高齢者を増加させるか、「健康寿命」を延ばすかということに、真剣に取り組んでいかなければなりません。

皆さんはイギリスのトーマス・パーさんというおじいさんを知っていますか。有名なウイスキー「オールド・パー」のラベルの肖像のおじいさんで、百五十二歳まで長生きした実在の人です。トーマスじいさんは小作農家のため、粗食、質素な生活で百三十歳まで農作業をするなど生涯現役だったそうです。

これからはトーマスじいさんのように健康で長生きする「生涯現役」を目標にし、高齢者が経験に裏打ちされた「生きた知恵」を生かし、仕事やボランティア、生きがいや趣味を通して社会参加する、いきいき高齢化社会を目指していきたいものです。

大崎市長　伊藤康志